

December 2007

大阪大学図書館報

vol. 41 no. 2 通巻 161号

発行所 大阪大学附属図書館 2007年12月25日発行
〒560-0043 豊中市待兼山町1の4

e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

CONTENTS

- 【特集1】大学統合で図書館はこう変わった …P. 1
- 【特集2】箕面分館はどんなところ? …P. 3
- 【特集3】「私と本と図書館」- 箕面分館長からのメッセージ - …P. 4
- 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 6-7
- Web サービス始動! …P. 8-9
- 「わたしのおすすめ本」リレー連載 その2 …P. 10



特集 箕面分館

今年の10月、大阪大学と大阪外国語大学が統合しました。旧大阪外国語大学は箕面キャンパスとなり、外国語学部、世界言語研究センター、日本語日本文化教育センターなどが大阪大学の新しい部局となりました。

今回の図書館報は、統合後の附属図書館を特集します。

【特集1】大学統合で図書館はこう変わった

○ 390万冊、日本有数の蔵書数に

統合前の大阪外国語大学の附属図書館は、蔵書数約63万冊（平成18年度末）を所蔵しており、これは単科大学としては日本でトップクラスの規模でした。

大学統合により、旧大阪外国語大学附属図書館は、大阪大学附属図書館と統合し、箕面分館となりました。統合と同時に、大阪大学の図書館システムが箕面分館にも導入され、図書館利用者票（学生は学生証）による入館・貸出が、箕面キャンパスでも豊中・吹田キャンパスでもまったく同じようにできます。また、目録データも統合され、箕面分館の蔵書もオンライン蔵書目録で検索できるようになっています。

大学全体の学生、教職員の皆さんにとっては、利用することができる図書館施設や資料が大きく増えることになりました。

統合後、大阪大学の蔵書数は箕面分館を加えて約390万冊となりましたが、これは日本の大学図書館で6番目、国立大学では3番目の規模です。国立大学で最大規模の学生を持つことになった大阪大学の図書館として、この蔵書数が十分に活用できるようにサービスの充実に努めていきます。



日本の大学図書館の蔵書数(300万冊以上)
(冊数は平成18年度末統計による)

東京大学	859万冊
京都大学	623万冊
日本大学	579万冊
早稲田大学	495万冊
慶應義塾大学	424万冊
大阪大学（統合後）	390万冊
九州大学	385万冊
東北大学	373万冊
北海道大学	369万冊
神戸大学	349万冊
広島大学	328万冊
大阪大学（統合前）	327万冊

○新しい資料とサービス

箕面分館の蔵書は多様な外国語と国際関係のコレクションを含んでおり、学生用図書も充実しています。蔵書規模と建物の面で、分館の中では最大となります。

	本館	生命科学分館	吹田分館	箕面分館	合計
蔵書数(冊)	2,277,688	492,791	497,271	632,083	3,899,833
雑誌所蔵数(種類)	35,832	18,605	10,120	7,247	71,804
サービス対象者数(人)	14,745	7,214	6,345	5,741	34,045
面積(m ²)	18,920	6,481	5,216	6,768	37,385

※蔵書数に研究室配置の冊数も含む。

また旧大阪外国語大学では、世界の各種言語による資料を所蔵しており、統合によって大阪大学の蔵書は、言語的な多様性が大きく増加しました。以下は、箕面分館の言語別蔵書冊数です。阪大の全蔵書に占める割合が大きいものは色を変えて表示していますが、半分以上の言語について、箕面分館の蔵書の割合が非常に大きいことが見てとれます。

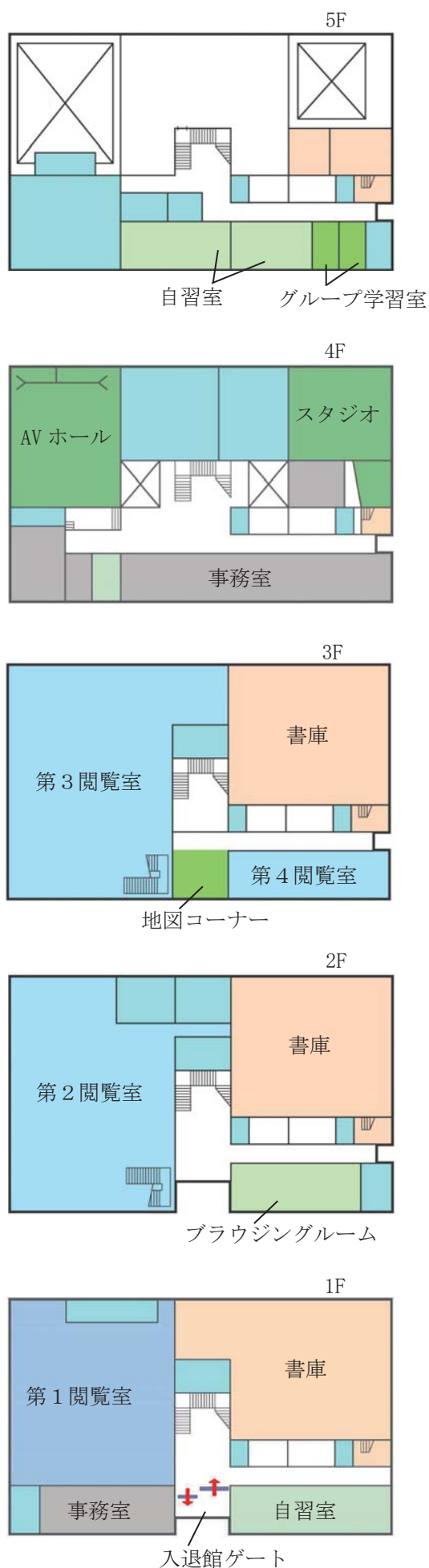
箕面分館の言語別蔵書数（平成18年度末現在）

日本語	208,485	リトアニア語	1,107	全蔵書数に占める 箕面分館の比率	50%～70%  70%～90%  90%以上 
英語	87,988	ベトナム語	781		
中国語	49,461	スワヒリ語	540		
ロシア語	29,462	スラブ諸語	485		
ドイツ語	14,998	ポーランド語	470		
フランス語	13,761	ラテン語	463		
ヒンディー語	12,574	パンジャブ語	434		
スペイン語	12,320	オランダ語	422		
ウルドゥー語	8,827	現代ギリシャ語	366		
タイ語	7,759	タガログ語＝フィリピン語	351		
インドネシア語	6,134	チェコ語	317		
イタリア語	5,180	セム・ハム諸語	306		
朝鮮語	4,885	マライ語	223		
ビルマ語	4,613	古代ギリシャ語	187		
ポルトガル語	4,306	アルタイ諸語	156		
ペルシア語	3,362	エスペラント	148		
モンゴル語	2,720	ノルウェー語	147		
アラビア語	2,542	ブルガリア語	139		
ハンガリー語	2,527	ウズベク語	127		
トルコ語	2,413	サンスクリット語	120		
ベンガル語	1,814	多言語	707		
デンマーク語	1,758	その他1721言語	3,450		
スウェーデン語	1,383				

電子情報に関しては、大阪大学で従来契約していた電子ジャーナル、データベースは、統合後は箕面キャンパスからも利用できるようになっています。（詳細は図書館ホームページをご覧ください。）また、旧大阪外国語大学で契約していた「ProQuest Academic Research Library」も、全学で利用できます。これはタイトル数 3,000 以上、全文収録タイトル数 2,000 以上の大規模な雑誌記事データベースで、主に人文・社会科学分野の学術誌が収録されています。統合により、大阪大学全体で利用できる電子情報が大きく増加したことになります。

また、今年4月から始まった「どこでも返却サービス」も、10月から箕面分館に拡大しています。今号の別ページで紹介している Web サービスも、大学統合と時期を合わせて10月から開始されました。





【特集2】箕面分館はどんなところ？

○場所と建物

箕面分館は、箕面キャンパスの中心をなす広場に面した5階建の建物です。図書館の入退館ゲートは1階にあり、入館方法は本館や他の分館と同じです。この建物の他に、総合研究棟の3階に後述するAVライブラリーがあります。

箕面分館入り口



○館内施設

館内は1階から3階までに閲覧室があり、開架図書が配置されています。1階には参考図書、2階は言語学と諸言語に関する図書、3階には一般図書を配架しています。

書庫は閉架になっていて、直接入るには、書庫利用ガイダンスの受講が必要です。書庫利用ガイダンスは学期はじめの春と秋に実施しています。ガイダンスを受けていない場合は、メインカウンターの職員が書庫内資料の出納をおこないます。

書庫内は1階に雑誌・紀要・新聞のバックナンバー、3階にはサハラ以南アフリカ言語・文化コレクションやチュルク系諸言語コレクションなどの大型コレクション、ビルマ語関係図書やインドネシア語関係図書を収集した個人文庫などが並んでいます。

4階にはAVホール（176席）があり、箕面キャンパスでの講演会などに利用されています。総合研究棟3階のAVライブラリー事務室で事前の申し込みを受け付けています。

5階には自習室（1階にもあります）とグループ学習室があります。グループ学習室の利用はメインカウンターで受け付けています。

貴重図書室



地図コーナー



○コレクション

箕面分館の蔵書の中で特に貴重なコレクションとしては、東洋史学者で西域古文書学の第一人者であった石濱純太郎氏（1888～1968）の旧蔵書である石濱文庫があります。これは約 39,000 点に及ぶ学会屈指といわれる東洋学コレクションで、モンゴル語・満州語・西夏語・ウイグル語・チベット語等に関する資料が数多く納められています。その他貴重図書として、『百二十老人話』、『蒙文大蔵経』、満州語稀覯図書等、多くの東洋学文献があります。これらの貴重書は書庫3階の貴重図書室に納められています。

また、3階閲覧室の一角には地図コーナーがあり、大阪外大卒業生、故廣岡寅治氏の奨学寄付金を基に収集された古地図を含む地図資料のコレクションが展示されています。

貴重図書の利用は、事前に申込が必要です。（詳細は箕面分館のホームページか利用案内をご覧ください。）

○AVライブラリー

総合研究棟3階にはAVライブラリーがあります。DVD、ビデオテープ、LD、カセットテープ、CD、CD-ROMなどの視聴覚資料を備え、ブースで利用できる他、約20の海外放送を視聴することもできます。ブースは映像用が37ブース、音声用が8ブースあります。（資料の貸出はできません。）

海外放送は、CNN、BBC、Deutsche Welle、TV5、RAI、KBS などが視聴できます。

箕面キャンパスにはこの他、日本語日本文化教育センターにも図書室があり、留学生用として日本語学習、日本理解を助ける図書を中心に配置しています。

AVライブラリー



【特集3】私と本と図書館

仁田義雄

私は、現在、箕面分館の分館長をさせていただいている。というより、この9月末まで、今はなくなってしまった大阪外国語大学の附属図書館長をさせていただいていた。

箕面分館の元になった元大阪外国語大学の附属図書館は、1921（大正10）年、大阪外国語学校の創立とともに設置され、1979（昭和54）年、大学が箕面の地に移転するのに伴い、現在の場所に移った。86年の歴史を有する図書館であった。私が最後の附属図書館長であり、28代目の附属図書館長であった。蔵書数は、個人研究室に置かれている本を合わせ、63万冊の半ばに達しようとしている。当然雑誌数を入れればこれより多くなる。小さな単科大学としてはかなりの蔵書数であったと思っている。

箕面分館はいくつかの大型のコレクションを有している。箕面分館の誇るコレクションに石濱文庫があり、他に、北欧民俗学・歴史関係コレクション、イタリア作家叢書、ロシア・スラブ言語コレクション、インドネシア現代史政治資料集成、アラブ・イスラム・アフリカ言語文化コレクション、チュルク系諸言語コレクション、サハラ以南アフリカ言語・文化コレクション、ロシア社会思想研究コレクションがある。また、古地図を含む地図資料をも有している。

石濱文庫は、故石濱純太郎博士が半世紀以上にわたって収集した図書を収蔵したものである。雑誌を入れ、42,300冊弱の書物を有している。モンゴル語・満州語・西夏語・ウイグル語・チベット語等に関する資料・文献が数多く収められている。さらに西夏語・モンゴル語の文献には稀覯書ともいふべきものが含まれている。また、漢書も、経・史・子・集の各部門にわたって層の厚さを誇っており、敦煌学関係の文献の収集はきわめて充実している。学会屈指の東洋学コレクションである。

私は、この10年大阪外国語大学に在職していたが、外国語研究、地域研究を行う人間ではない。私の専門は日本語学である。特に現代の日本語文法に対する分析・記述と、それに関連して近代日本における文法研究の歴史・歩みを、研究の対象としている。後者は、私自身が文法研究を行ううえにあたって、自らの位置取りを確かめるためのものであった。現代日本語文法への分析・



記述に関しては、さほど古い本を必要としない。ただ、後者の近代日本文法研究史を推し進めるにあたっては、それなりに古い本、手に入りにくい本が必要になった。探求書ということで、知り合いのいくつかの古書店に購入を依頼したこともあった。また古書目録が届き、めばしい本、探している本が収録されていれば、すぐさま購入の電話をかけたこともしばしばあった。運よく売れずに残っていて購入することができ、すごく嬉しい気持ちになったことも多々あったが、一足違いで売れてしまい、残念な思いをしたことも少なくない（このごろは、古書店の協同組合がインターネット上に古書のデータベースを作っており、目録到着後注文したのでは、既に売れてしまっており購入できないことが少なくない。ただ、その分、求めている古書を探しやすくなってきてはいる）。

古書との出会いは、一度機会を逃してしまうと、なかなか再度巡り会うことが難しい場合が少なくない。私の場合、そのような本の一つに B. H. Chamberlain の *A Handbook of Colloquial Japanese* の初版があった（これは 2 版・3 版・4 版と版を重ねており、補訂の程度には差はあるものの、いずれにも手が加えられている。初版は発行部数が他に比べて少ない）。他の版をすべて持っていた私は、初版が古書目録に出たとき、すぐさま注文したのだが、一足違いで購入し損ねてしまった。それから 20 年近く経って再度巡り会うことができ、今度は運良く購入することができた。また、初編から四編まで上下、計 8 冊刊行された『絵入智慧の環』という本がある（洋式文典の内容を含む明治に出た最初の書）。手に入れたものの、1 冊欠けた端本であった。欠けた 1 冊を探し求めたが、その 1 冊だけを手に入れることは難しく、これもかなり経ってから新たに 8 冊全部を買い求めることになった。古書との出会いは一期一会的なところがある。

古い本や手に入りにくい本といっても、私の場合、対象が江戸末期あるいは明治の極初めからのものであることから、無理をすれば購入できないことはない。したがって、あまり図書館を巡るという訪書の旅に出たことはない。それでも天理大学の附属図書館や国会図書館のお世話になったことがある。国会図書館の計らいで見ることができた、『横文字綴日本文典初学』（これは「ANIPPON BUNTEN UHI-MANABI」という内題を持つ）は、明治以後日本人の手によってローマ字で著された最初の文典である。ありがたいことに、この本は、後に私の論文の内容の一部になってくれた。

貴重な書物・珍しい書物が存在することは、図書館にとって重要なことである。それとともにあるテーマに関して一群の書物が集まっていることは、それに劣らず図書館にとって大事なことである。研究者に益すること大である。貴重なコレクションを含む箕面分館の 63 万冊は、大阪外国語学校・大阪外国語大学の先輩たちが営々として収集してくれたものである。この箕面分館の書物が散り散りばらばらにならず、今後とも研究者・学生諸君のために役立ってくれることを、最後の附属図書館長だった者として願わずにはおれない。

（につた・よしお 箕面分館長、言語文化研究科教授）



平成 19 年度学術情報リテラシー教育担当者研修を開催しました

図書館における利用者教育をカリキュラムの中心とした上記研修が、10月10日（水）から10月12日（金）の3日間、国立情報学研究所との共催により、豊中本館を会場として開催されました。研修には西日本各地の国公私立大学の図書館職員を主として、54名の受講者がありました。

附属図書館からも1名受講しており、他大学における実践事例報告や共同討議で得た知見は、附属図書館のサービス向上に参考となるものでした。

研修の詳細は、国立情報学研究所のWebサイトでご覧いただけます。

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/literacy/h19/curritxt.html>



箕面分館の「きくみみくん」



箕面分館のご意見箱として、大阪外国語大学の頃からおなじみのキャラクターです。

図書館へのいろいろなご意見に「きくみみ」を持ってお返事します。



利用者アンケートへのご協力ありがとうございました

豊中本館、生命科学分館、吹田分館、箕面分館において、11月6日（火）から11月27日（火）にかけて利用者アンケートを実施し、2,666 人の方からご回答をいただきました。

アンケートの結果報告は図書館ホームページや図書館報等に掲載します。

図書館では、今回のアンケートを今後の図書館サービス改善につなげていきたいと考えております。

ご回答いただいた皆さん、ご協力本当にありがとうございました。

教員著作寄贈図書のご紹介

2007. Jul. ~ 2007. Oct.

寄贈者氏名（所属） ※敬称略	書名（出版者、出版年）
中野貞一郎（名誉教授）	▲寄贈者のコメント 民事訴訟法概史（信山社、2007）
田野村忠温（文）、 石井正彦（文）	コーパス日本語学ガイドブック（特定領域研究「日本語コーパス」日本語学班、2007） ▲コーパス日本語学の入門的な手引き書です。日本語の研究にコーパス（電子媒体の言語資料）を役立てるための初歩的な方法や関連の知識などを解説・紹介しています。
玉井 暲（文）	批評理論を読む、テキストを読む：文学研究方法論への挑戦（大阪大学大学院文学研究科英米文学研究室、2007） 「異界」を創造する：英米文学におけるジャンルの変奏（英宝社、2006）
堂山英次郎（文）	リグヴェーダにおける1人称接続法の研究（大阪大学大学院文学研究科紀要・モノグラフ編：第45巻-2）（大阪大学大学院文学研究科、2005） ▲コメントはWebページ（ http://www.library.osaka-u.ac.jp/kyoin/Douyama-comment1.html ）
太郎丸博（人間科学）	社会階層と非正規雇用：大阪大学大学院人間科学研究科2007年人間科学方法実習I報告書（太郎丸博、2007） フリーターとニートの社会学（世界思想社、2006） ▲若者の労働問題を論じた著書は多いですが、オーソドックスな社会学の手法で、しっかりとデータ分析している点が特色です。若者の満足度や自尊心などについてしっかりと分析している点も、他の著書にはない特色でしょう。
中村安秀（人間科学）	国際保健医療のお仕事：あなたもチャレンジしてみませんか（南山堂、2003） ▲日本は開発援助大国だが、国際保健医療の人材育成に関しては発展途上。国際保健医療に関する情報のナビゲーターだけでなく、国際協力を経験した先輩からの自身の生き方や励ましのメッセージを盛り込んだ。
浅田孝幸（経済）	Value-based management of the Rising Sun (Monden Institute of Management, Japanese management and international studies : v. 1) (World Scientific, 2006) ▲本書（タイトル：ライジングサンにおける価値ベースのマネジメント：出版社 World Scientific）は、門田安弘教授（目白大学教授、筑波大学名誉教授）を中心に、2002年9月に実施決定された、日本会計研究学会特別委員会（2年間の研究、最終報告「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」、2004年9月刊行）による原稿を元にし、英文として内容的な新規性と関連性を意図して再構成された追加原稿を入れて、再編集されたものである。全体は、1部から5部までの構成になっており、第1部では、組織設計の理論、第2部では、事業戦略のための計画と管理、第3部では、事業グループの分権的単位の設計と管理、第4部では、事業プロセスの設計と管理、第5部では、組織マネジメントのための会計に関する基礎理論という構成である。執筆者は、37名の研究者が入っている。日本の会計・経営学の研究者以外にも、日本のマネジメントに関心をもった海外の研究者も執筆に参加しており、国際的レベルでの日本経営・管理の研究書となっている。
阿部武司（経済）	日本経営史：江戸時代から21世紀へ 新版（有斐閣、2007） 日本産業発展のダイナミズム（東京大学産業経済研究叢書）（東京大学出版会、1995） 経済史再考：日本経済史研究所開所七〇周年記念論文集（大阪経済大学日本経済史研究所、2003） 開港と維新（日本経済史 3）（岩波書店、1989） 産業化の時代（日本経済史 4-5）（岩波書店、1990） 経営革新と工業化（日本経営史 2）（岩波書店、1995） 繊維工業（GHQ日本占領史 49）（日本図書センター、1998） 松方財政と殖産興業政策（国際連合大学、1983） 社会経済史学の課題と展望（有斐閣、1992） 日本経済の200年：西川俊作教授還暦記念論集（日本評論社、1996） 朝倉每人日記（近代日本史料選書：昭和9年-昭和11年）（山川出版社、1983.3-1991.2） 朝倉每人日記（近代日本史料選書：昭和12年-昭和15年6月）（山川出版社、1983.3-1991.2） 朝倉每人日記（近代日本史料選書：昭和15年7月-昭和17年）（山川出版社、1983.3-1991.2） 世界の中の日本経済：国際国家日本の条件（有斐閣、1991） 暮らしと物価大阪百話（大阪市民局生活文化部消費生活課、1992） Region and strategy in Britain and Japan : business in Lancashire and Kansai, 1890-1990 = Ei Nichi ryokoku ni okeru chiiki to keiei senryaku : Rankasha to Kansai no bijinesu, 1890-1990 (Routledge international studies in business history ; 7) (Routledge, 2000) Japan, China, and the growth of the Asian international economy, 1850-1949 (Japanese studies in economic and social history ; v. 1) (Oxford University Press, 2005) オンリーワンをめざして：三澤株式会社五十年史（三澤、2006） 近代日本における企業家の諸系譜（大阪大学出版会、1996） 近代大阪経済史（大阪大学新世紀レクチャー）（大阪大学出版会、2006）

教員著作寄贈図書のご紹介について、紙面の都合により、次号からは簡略化して掲載させていただきます。

2005年3月以降に教員著作寄贈としてご寄贈いただいた図書は、91名の方から、212冊です。

今後ともご協力よろしくお願いいたします。

鳩澤歩（経済）	ドイツ工業化における鉄道業（有斐閣, 2006）
倉智嘉久（医）	心筋細胞イオンチャネル：心臓のリズムと興奮の分子メカニズム（文光堂, 2000）
原島俊（工）	バイオテクノロジーのための基礎分子生物学（化学同人, 2004） ▲バイオテクノロジーの基盤は、分子生物学によって支えられていると言っても過言ではない。また、現代の基礎生命科学の主要な課題は、バイオテクノロジーの課題に直結するということもできる。そのような観点から、本書は、工学部、農学部、生命理工学部、理学部、生物生産学部など学部のいかににかかわらず、将来バイオテクノロジーを専攻しようとする学部学生のために必要な基礎分子生物学のエッセンスをまとめた教科書である。
馬場研介（工）	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震災害調査速報（大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻建築工學部門, 2007） ▲2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震による建物の被災状況を緊急調査したので、その後に得られた地震資料も考慮したうえ検討内容を本速報にまとめている。近年に日本国内で発生した逆断層による大地震はきわめて少なく、本地震を除いて3年前に発生した新潟県中越地震が知られている程度である。そこで海外の逆断層地震も参照して建物被害分布の特徴を探索し、建築耐震工学の進展に役立てたいと希求している。
熊谷悦生（基礎工）	シミュレーションの視点から（Rで学ぶデータマイニング 2）（九天社, 2007） ▲統計処理言語Rを使ったデータマイニングの実証として、選挙データ、ニューラルネットワーク、株式売買に関して解析やシミュレーションを行なった。
竹田順子（言語文化）	フランス児童文学史（青山社, 1994）
松浦寛（国際公共）	環境法概説 全訂第4版（SBC大学講義シリーズ：18）（信山社, 2004） 人権保障の現状と課題（憲法 1）（嵯峨野書院, 2006） 国家の組織と人権保障手続 第2版（憲法 2）（嵯峨野書院, 2006）
佐久間修（高等司法）	いちばんやさしい刑事法入門 第2版（有斐閣, 2007） 演習講義刑法各論（法学書院, 1997） 演習講義刑法総論（法学書院, 1998） 刑法各論（成文堂, 2006） 刑法講義（各論、総論）（成文堂, 1990-1997） 刑法講義（各論：第1分冊）新版（成文堂, 2002） 刑法における事実の錯誤（成文堂, 1987） 刑法における無形的財産の保護：企業秘密、コンピュータ・データを中心として（成文堂, 1991） 最先端法領域の刑事規制：医療・経済・IT社会と刑法（現代法律出版, 2003） 実践講座・刑法各論（立花書房, 2007） 事例解説現代社会と刑法（啓正社, 2000）
西村ユミ（CSCD）	交流する身体：「ケア」を捉えなおす（NHKブックス：1079）（日本放送出版協会, 2007） ▲「病い」という経験が、他者と分け持たれつついかに形づくられているのかを、看護学生や新人看護師のケアの経験を捉えなおすことによって明らかにしようとした試み。
平田オリザ（CSCD）	対話のレッスン（小学館, 2001） 芸術立国論（集英社新書：0112F）（集英社, 2001） 話し言葉の日本語（小学館, 2003） 演劇のことば（ことばのために）（岩波書店, 2004） 東京ノート（ハヤカワ演劇文庫：8、平田オリザ：1）（早川書房, 2007） 転校生（平田オリザ戯曲集：2）（晩聲社, 1995） 火宅か修羅か：暗愚小傳（平田オリザ戯曲集：3）（晩聲社, 1996） 南へ：さよならだけが人生か（平田オリザ戯曲集：4）（晩聲社, 2000） カガクするココロ（ヨムゲキ100：002）（ENBU研究所, 1999） 北限の猿（ヨムゲキ100：003）（ENBU研究所, 1999） パルカン動物園（ヨムゲキ100：004）（ENBU研究所, 2001） 冒険王（ヨムゲキ100：005）（ENBU研究所, 2001） Nouvelles du plateau S (Solitaires Intempestifs, 2003) Tokyo notes (Solitaires Intempestifs, 1998) Gens de Seoul (Solitaires Intempestifs (les), 2000) Chants d'adieu (Solitaires Intempestifs, 2007) Les rois de l'aventure (Solitaires Intempestifs, 2006) ソウル市民：日韓対訳版（青年団, 1993） 演劇入門（講談社現代新書：1422）（講談社, 1998） 演技と演出（講談社現代新書：1723）（講談社, 2004） 現代口語演劇のために（平田オリザの仕事 / 平田オリザ著：1）（晩聲社, 1995） 都市に祝祭はいらない（平田オリザの仕事 / 平田オリザ著：2）（晩聲社, 1997） 地図を創る旅：青年団と私の履歴書（白水社, 2004） 十六歳のオリザの未だかつてたけしのない勇気が到達した最後の点と、到達しえた極限とを明らかにして、上々の首尾にいたった世界一周自転車旅行の冒険をしるす本（晩聲社, 1996） 受験の国のオリザ（晩聲社, 2001） 道路劇場、バヌアツへ行く（晩聲社, 1992）

ここが
ベリ！
その1

OPACから貸出予約ができる！ 予約した本が返ってきたらメールでお知らせ！

欲しい本を OPAC で調べたら貸出中・・・
そんな時には次に借りられるよう、貸出予約ができます。
これまではカウンターでお申し込みいただいていたが、
OPAC (オンライン蔵書目録) の画面からも申込みができるようになりました。
図書館の中の OPAC 検索端末だけでなく、自宅、研究室からももちろん OK。
さらに、あらかじめ Web サービスの E-mail アドレス登録メニューからアドレスを登録して
いただければ、予約した本が返ってきた時にメールでお知らせします。

ここが
ベリ！
その2

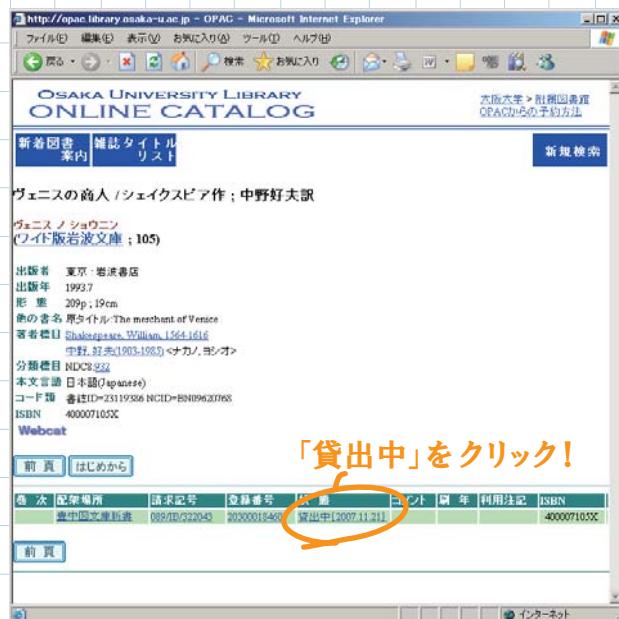
貸出期間の延長手続きが Web からできる！

今、借りている本が期限までに読み終わられなかった・・・
そんな時には1度だけ、貸出期間を延長することができます (一部対象外あり)。
これまでは手続きの際に本をカウンターまで持っていく必要がありましたが、
Web サービスを使えば自宅や研究室からインターネットで手続きが可能に。
もう、延長手続きのために図書館まで重たい本を持ってこなくても大丈夫！

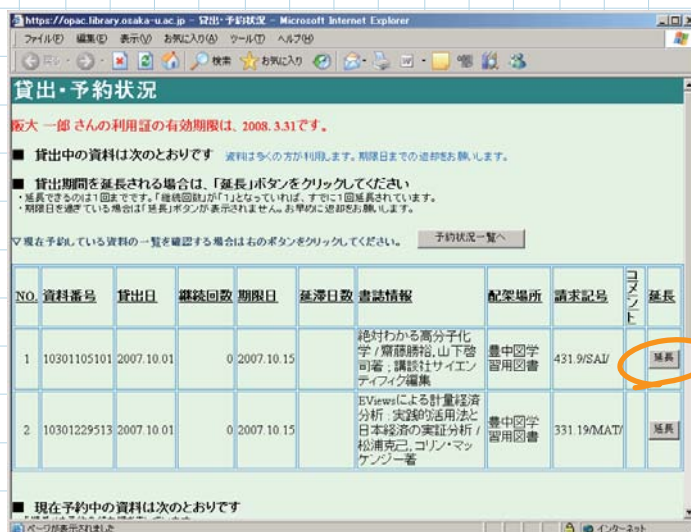
ここが
ベリ！
その3

貸出状況、予約状況が Web で確認できる！

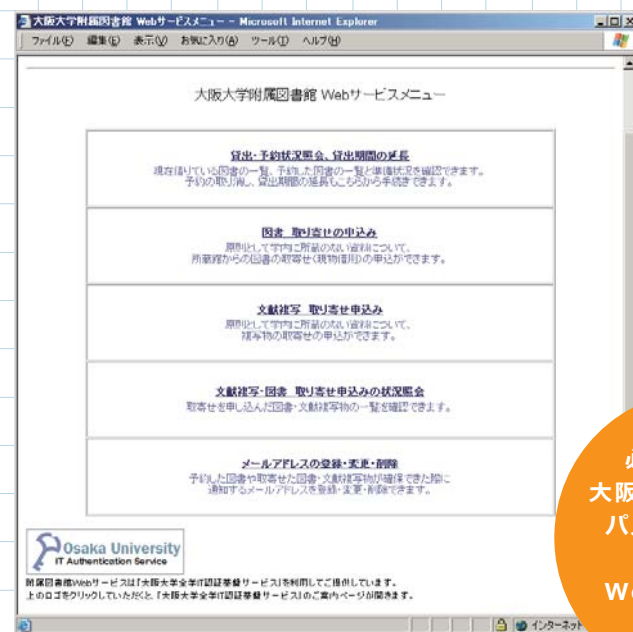
今、借りている本は何冊？ 返却期限日はいつ？
— 今まではカウンターでお問い合わせいただいていたが、
Web サービスを使って自宅や研究室にしながら確認できるようになりました。
貸出予約の状況も確認できます。



「貸出中」をクリック！



「延長」をクリック！



必要なものは
大阪大学個人 ID と
パスワードだけ。
今すぐ
Web サービスに
ログイン！

大阪大学附属図書館 Web サービスお問合せ窓口

	貸出・予約に関すること	図書・文献複写物の Web 申込受取窓口
豊中本館	メインカウンター 06-6850-5067	相互利用カウンター 06-6850-5068
生命科学分館	メインカウンター 06-6879-2415	参考調査カウンター web ページでご案内
吹田分館	06-6879-7187	web ページでご案内
箕面分館	072-730-5216	072-730-5126
人間科学研究科図書室	06-6879-8015	お取り扱いしていません
薬学研究科図書室	06-6879-8155	お取り扱いしていません
微生物病研究所図書室	06-6879-8359	お取り扱いしていません
蛋白質研究所図書室	06-6877-5111 (Ext. 9210)	お取り扱いしていません
産業科学研究所図書室	06-6879-8394	お取り扱いしていません

お電話によるお問合せの対応時間は平日 9:00 から 17:00 です。

ここが
ベリ！
その4

文献の取寄せ申込みも Web から！

ほかの大学にある資料を取り寄せたいけれど、
窓口の開いている時間に図書館へ行けない・・・
そんな方のために、Web から図書や文献複写物の取寄せ申込みが
できるようになりました。初回に窓口で利用登録すれば、
次から Web での申込みが可能になります。
※文献取寄せサービスは図書館によりお取り扱い状況が異なります。
くわしくは、最寄の Web 申込受取窓口へお問い合わせください。



<http://www.library.osaka-u.ac.jp>

この他、くわしいご案内は附属図書館 Web ページ
「Web サービスを初めてお使いになる方へ」をご覧ください。

2007.10.1. Web サービス始動！

2007年10月1日より、みなさまからのご要望が多かった
Web サービスがスタートしました。
貸出、予約、文献の取り寄せがより便利に！
自宅、研究室のパソコンからも使えます。ぜひご利用ください。

Web サービスは大阪大学の方のみが
ご利用いただけるサービスです。



わたしのおすすめ本

リレー連載 その2

『最後の物たちの国で』

ポール・オースター 柴田 元幸訳 (白水社) 1994

松永 洋



箕面分館 3 階閲覧室に所蔵

請求記号：933.7/R

「一瞬目を閉じたり、うしろを向いて別のものを見ただけで、たったいま目の前にあった物がもうなくなっているのです。何もかも続きはしません。そう、心のなかの思いさえも。」

この物語は、何もかもゼロに向かって進行している。誰にもその流れは止められない。全てが減んでいく過程にある。世界の終わりに向けて。しかし、彼らには、彼らがまだ見ぬ世界が残されている。それは読者が想像することができる世界でもある。

私がこの物語に惹かれたところもそこである。登場人物が限りなくゼロに近い存在である。身軽であり、それゆえ、軽率である。なぜそんなに簡単に自分が生きるために人を無視できるのか。なぜ感情が激しく揺れ動くのか。なぜ諦めきれないのか。全ては人間が持っている本能のためかもしれないと、この本は思わせる。

話の筋は、アンナ・ブルームという女性が、失踪した兄を探すために、破滅の都市へやってくる場所から始まる。アンナは、なかなか兄を見つけ出すことができない。そして持ち金もどんどん少なくなっていく。次第に飢えが彼女の生活を脅かしはじめる。とうとう彼女もその都市の住民と同じようにごみ漁りを始める。そして必要に駆られて様々な住民たちと交流するようになる。最初は、よそよそしかった彼女だが、彼らの中にも人間的な優しさが残っているのを知って、心を開くようになる。そんなある日、敵から逃れるために、偶然に駆け込んだ図書館で一人の男に出会う。その男もアンナの兄を探すためにこの町に来ていた。二人は協力してこの町でなんとか生き延びようとする。果たして彼女は、兄を見つけ出し、元の世界へと帰ることができるのか。

話は、アンナの一人称で、過去を振り返るという形で語られる。アンナはそれを手紙に書き進めている。アンナの記憶力はすごい。何かに迫られているようにどんどん話を進めていく。でも、終わりははっきりとは明らかにされない。

『最後の物たちの国で』は、名を与えられていない、地理的にもどこに位置するのか定かでない国が舞台であり、全体に寓話的な雰囲気がある。ともすれば、私たちには全く関係のない世界の話であるかもしれない。しかし、この世界には、現代の私たちが生きている世界の最悪のものが詰め込まれているとも言えるだろう。それは、実際に読んで人に判断してもらいたい。物語の展開に決して飽きることなく読めると思うので、ぜひ手に取って読んでみてほしい。

(まつなが・ひろし 外国語学部2年、附属図書館)

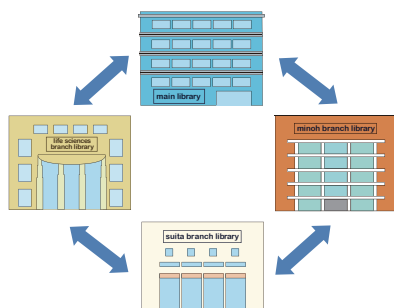


箕面分館も学内相互貸借で 取り寄せ可能、 どこでも返却が可能

10月からは箕面分館も加わり、以下の図書館室で貸出された図書について、貸出館室以外の各館室でも返却できます(雑誌と一部の図書を除く)。

豊中本館、生命科学分館、吹田分館、箕面分館、人間科学研究科、薬学研究科、微生物病研究所、蛋白質研究所、産業科学研究所の各部局図書室

また、学内相互貸借サービスで箕面分館からの文献取り寄せが便利になりました。どうぞご利用ください。



デジタルリポジトリ連合 国際会議 2008 が開催されます

2008年1月30日(水)～1月31日(木)、大阪大学吹田キャンパス銀杏会館にて上記会議が開催されます。この会議は、日本国内の機関リポジトリの拡がりに関心の高まりを踏まえて、進捗するオープンアクセス環境の中での機関リポジトリの現状をアジア・世界の視点から検討し、今後の課題を共有することを目的としています。想定されているテーマは、オープンアクセスの課題と現状などです。

詳細は、公式HPをご覧ください。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/DRFIC2008/index_ja.php

